

2・もしかしてこの旅館、壁うすい？

ある夏の日。夕方四時ごろ。

主人公とトワ、小さな旅館に泊まっている。

今日は本来、少し遠くの街まで日帰り旅行する予定であった。

しかしその途中で突然雨に降られ、急遽近くの旅館に宿泊することになったのである。

二人は宿に来てすぐお風呂に入り、主人公は部屋で髪を乾かしている。

一方、トワは先に髪を乾かし終わり、お手洗いに行くついでに宿の人と話をして、戻つてくるところである。

宿は古民家を改造した可愛らしいところだが、部屋は四つしかなく、小さい。

また、お風呂とお手洗いは別で、家庭用のものが建物内にひとつあるだけである。

さらに、泊まること自体急なので、素泊まり。

つまり、雰囲気は良いが『だいたい民家』なのであつた。

主人公、部屋でトワを待つている。

トワは廊下を歩いている。

SE1..外の環境音。かすかに雨の音が聞こえる

【頭から流す。5秒ほど流してからSE2。】

その後、音量ごく小さめにしてトランク終了まで流し続ける【

SE2..部屋の外から、トワが木の床を歩く足音。だんだん近づいてくる

【頭から流す。5秒ほど流してからSE3】

SE3..トワがドアをノックする音

【すべて流す】

SE4..主人公がドアを開けようと、立ち上がる音

【頭から流す。0—5秒ほどまで流す。】

SE5..主人公がドアへ向かって歩いていく音
【頭から流す。0—5秒ほどまで流す】

SE6..主人公がドアを開錠し、扉を開ける音
【すべて流す】

●中央

【「は」にアクセント。「は」あい♥「と」いう感じで】

はい、ただいま戻りましたあ♥

見て下さい。お宿のおばさまに♥ お茶とお菓子いただいちゃいました～♥
飲みましょ食べましょ♥」

（主人公）

「わあ～！ 嬉しいね！ 飲もう！ 食べよう！」

SE7 .. トワが扉を閉める音

【すべて流す】

SE8 .. トワが扉を施錠する音

【すべて流す。音量ごく小さめに】

トワ、主人公が髪を乾かし終わっているのに気づく。

●中央

「あ♥
アナタも髪乾かすの、終わったんですね♥

【近づいて髪の匂いをかぐ】

すんすん♥ いい匂い♥ もうすっかりあつたまつて♥ ほこほこですね♥

【かなり安堵して】

よかつたあ～♥

【髪にキスする】

ちゅ♥「

SE9 .. トワと主人公が部屋の奥へ入ってくる足音

【SE5と同じ音。途中から流す。6—11秒ほどまで流す】

SE10 .. 主人公がテーブルにお茶とお菓子を置く音

【頭から流す。最初の『コン』のみ流す。】

SE11 .. 主人公が畳に腰掛ける音

【SE4と同じ音。途中から流す。9—15秒ほどまで流す】

●中央
SE12：主人公がお茶を注ぐ音
【すべて流す】

●中央
【主人公がお茶を注いでくれているのを見て。『ありがとうございます♥』の『ます』を上げる】

あ♥ ありがとうございます♥

●中央
SE13：トワが床に腰掛ける音

【SE4、11と同じ音。途中から流す。20—23秒ほどまで流す】

●中央
【お茶を飲んで（飲むふりの演技でOKです）】

【少し間を開けて。一息ついてから話す】
んん……おいし♥

にしてもお。まさか急に降られるとは思いませんでしたよねえ！

夏の天気は変わりやすいと言いますが。

あつという間に全身びしょ濡れになるほどの雨とか、トワビッククリですう。【手際よくこの宿を見つけた主人公のことが誇らしくてたまらない。ここからだんだんテンションが上がっていく】

でもアナタがすぐにここを見つけてくれたおかげで♥

トワ達は難を逃れました♥

やつぱり持つべきものは♥

お出かけプロデュース力とネット検索力の高い奥さん♥ ですね♥

●中央
【前髪にキスする】

ちゅ♥

●中央
ちゅ♥

それにこゝ。古民家を改造して作られたそうでえ。
小さめですけど可愛くて雰囲気ある建物ですしい♥
本来日帰りだった夏のラブラブ田舎小旅行に。

『雷雨というハプニングにより急遽宿泊♪』 ♥

という素敵な思い出が追加されちゃったと思うと♥
トワだんだん♥ 『雨、やるじやん♥』 って気持ちになつてきました♥』

SE14 :トワが湯呑をテーブルに置く音

【頭から流す。0—1秒ほどまでの『コトン』のみ流す】

●中央
【「ここ」で一度落ち着く】

そうだ。

さつきお宿のおばさまに聞いたんですけど。

タジ飯はさつき通った海鮮丼の店がオススメだそうです♥

傘も貸してもらえるそなんで♥ 一休みしたら！ 行ってみませんか？』

〈主人公〉

「うん！ いいね、行こう！ 楽しみだね』

●中央
【「やつたあ♥ サーモン♥ いくら♥ うーに♥ 楽しみですう♥

●中央
至近距離

【主人公の髪の匂いをうつとりとかぐ】

ふふ♥ いい匂い♥

【額に軽くキスする】

ちゅ♥

いつもと違うシャンプーのアナタ。新鮮でトワときめいちやいます♥

【頬に軽くキスする】

ちゅ♥ お宿探す時も。

すつゞく手際よくてかつこよかったですしい♥

【唇に軽くキスする】

ちゅ♥

トワ、気持ちが高まり、主人公に抱きつく。

SE15 :トワが主人公に『がばっ！』と抱きつく音

【頭から流す。0—4秒ほどまで流す】

● 左 至近距離

【テンションが上がり『好き好き』『大好き』が赤ちゃん言葉になる】
もお、しゅきしゅきー ♡ だいしゅきー ♡

● 中央 至近距離

【もう一度唇に軽くキスする】

ちゅ ♡

【軽く、触れるだけのキスを3回する】

ん ♥ ちゅ ♥ ちゅ ♥ ちゅ ♥

【*30秒* ほどキスする。ここから舌を入れる深いキスになる】

れろ ♥ ん …… ♥ ちゅ ♥ くちゅつ……ちゅるつ……じゅるつ……ちゅつ ♥ ちゅぱつ

…れろつ ♥ ちゅるるつ ♥ くちゅちゅつ ♥

【*7秒* ほどかけて呼吸を整える】

はあ……はあ……はあ……。

ふふ ♥ 可愛い ♥ お顔とろとろになっちゃいましたね ♥

【もう一度唇に軽くキスする】

ちゅ ♡

【ささやく】

わざとゆつくりささやく

〈主人公〉

「うん……♥」

● 右

【嬉しくてたまらない】

ふふ ♥

【わざとゆつくりささやく】

じやあ ♥ 次は、もみもみしながらちゅーしようね ♥

SE16

・トワが主人公の胸を触る音

【すべて流す。音量やや小さめに】

● 中央 至近距離

【*1.5秒* ほどキスする。最初から舌を入れる深いキスになる】

んぐう…… ♥ くちゅう ♥ ちゅう……くちゅう ♥ ちゅるるり ♥ じゅるり……ちゅ ♥

【*7秒* ほどかけて呼吸を整える】

はあ……はあ……ふふ♥ きもちいの？ 可愛い♥

【心底嬉しそうに、ゆっくりと】

アナタがトワの奥さんでえ。トワ、ほんとに幸せ～♥

【唇に軽くキスする】

ちゅ♥

【少し間を置いてから。声がちょっと意地悪になる】

……でもおトワ的にはあ。

実は。ちょっとツッコミたいところもあるんだよねえ？」

〈主人公〉

「……えつ？ な、何かなあ？」

トワ、言いながら、昼間の出来事を思い出している。

先ほど、主人公がこの宿を探すためにスマホを開いた瞬間、スマホのブラウザ内に、主人公が昔好きだった人のSNSのページがタブに残っていたのを目にしたのである。

トワ、今夜はぜひこれをネタにおしおきをしたい。

『だが、普通にやつてもつまらない。何かネタはないか……？』と思ったところ、隣の部屋の存在を利用する」ことを思いつく。

●中央 至近距離

【ちょっと意地悪に】

ふふ？ 心当たり。あるでしょお？

【ゆっくりささやく】

さつきアナタがスマホ動かす時♥ トワ見えちゃったんですよお？ アナタが……】

トワ、っこで急に黙る。
耳を澄ます演技をする。

5秒ほど間。

●中央 至近距離

「『ん？ 何か聞こえるぞ？』という感じで】

「ん？ なんか、

【ひそひそ声になる。思わず話すボリュームが下がる】

声聞こえません？」

5秒ほど間。

別に何も聞こえないが、主人公はトワの言葉を信じかけている。

〈主人公〉

「……え？ そうかなあ？ わたしには何も聞こえないけど……」

●中央 至近距離

「え？ 聞こえますよお。

【ひそひそ声になる】

「これって、お隣のお部屋の声ですか？」

5秒ほど間。

やはり別に何も聞こえない。しかし、主人公は完全に信じ始めている。

〈主人公〉

「……そう言われてみれば、何か聞こえるような気がする。かも……？」

【まだひそひそ声。『こんなのがアリですか』と驚いている】

「ねえ！ 話し声聞こえますよねえ？ か。壁。薄すぎでは？

ここ、めちゃお安く見て見た目もお店の方もいい感じですが、それだけが弱点的な？

【わざとらしく主人公をあおる】

も、もしおつきな声で話しかやつたら。全部聞こえちゃうやつですか？」

5秒ほど間。

トワ、完全に嘘なのだが、主人公がすっかり信じ切っているのが面白い。同時に『まあ、このくらいの意地悪は許されるだろ？……』と思っている。

一方主人公は『全体にいい感じな割に宿泊代が安かつたのは、こういうことだったのかも……』と納得し始めている。

もちろん、物音など、最初から一切していない。そもそも、隣の部屋に宿泊客はない。

〈主人公〉

「あわわ……意外な弱点だね。お隣のご迷惑にならないように、静かにしなきやだね」

トワ、耳を澄ます。

●中央 至近距離

【耳を澄ましている】

ふむう。

【少し間を置いてから。悪だくみする演技をする】

ふくん？ 考えようによつては♥ こういうのもアリですね♥

【前髪にキスする】

ちゅ♥」

〈主人公〉

「ト、トワちゃん？」

主人公、驚く。たつた今『静かにしようね』と言つたばかりなのに、トワはまるで意に介さず、再びえっちモードに入りつつあるからである。

●中央 至近距離

【上機嫌で】

そうだ。話がまだ途中でしたね♥

●右 ※マークまでささやく

【ささやく】

さつきトワ♥ チラつと見えちゃったんですよ～？

【声のトーンは変わらないが、完全に怒っている】

アナタまた♥ かつてアナタが愛したあの女のSNS♥ 見てたでしょ～♥

※

●中央 至近距離

ブラウザのタブに残してましたよね～♥

トワ、呆れてはいるが、すでに『主人公とはそういうもの』と理解している。

むしろ、主人公の唯一どころにもならない欠点が『もう会える可能性もなさそうな相手をいまだに気にしている』ということならば、むしろそれはラッキーなのではと考え始めている。その他は、トワ的にほぼ気になるところナシだし。

ならば今後は『あの女』を二人のえっちライフのダシにしてやろうと思いつ始めている。なので、あまり怒っていない。

〈主人公〉

「あうあうあ……。『、』めんなさい……。どうしても気になつて……」

●中央 至近距離

【わざとらしく呆れて。あまり非難する雰囲気にならないようにはあく。見ても心觸るだけなのに何で見ますかねー?】

【甘つたるくからかう】

アナタってば♥ どこまでドMちやんなんですか?

【わざとらしく『よよよ……』と悲しんでいる演技をする】

トワというものがありながらあつ。ぐっすん!】

〈主人公〉

「本当に『めんなさい』……。言い訳はありません……」

●中央 至近距離

【『も・お!』を ゆっくり、強調して言う】

も・お! これはお仕置きしかないですよねー?】

〈主人公〉

「へ? あ、あのトワちゃん……。
おしおきは受けます。受けるけど……。

その……」ではちょっと……」

●中央 至近距離

【わざと意地悪する】

ふーん。、じややあの?

じやあ♥ お隣の部屋だけじやなく廊下にも聞こえるように、
入り口の方へ移動しますう?】

〈主人公〉

「あつ。だつ、だめえ……♥」

トワ、主人公が『ダメ』と言いつつ、完全にその気なのに気づいている。

『怒られてるのに、アナタってばつくづく変態。ていうかもしかして、おしおきされたくてわざとタブ残してましたー?』と思い始める。

『であればもはや、おしおきえっちしない手はない♥』と考える。

●右

【ささやく】

じやあ〜〜でお仕置きですね〜♥

●中央

【唇に軽くキスする】

ちゅ

と〜つても壁の薄いこの部屋で♥ バレないようにな
ラブラブひそひそお仕置きえっちしましちゃうね♥

●右

【早口で、意地悪にささやく】

だつでもうしたくてしようがないでしょ？ アナタすっかり身体熱くなつて♥ お皿皿と
ろくんつてなつてますよ♥

【『あんあん、いくいく』をゆつくり、わざといやらしい言い方で言う】

おうちでいるときみたいに♥ いっぱいあんあん、いくいくさせてあげますからね♥

ふふ♥「

ここでフェードアウトして、次のトラックへ。